

総務企画常任委員会 意見交換会報告

去る10月4日に白山市交通安全協会の5名の役員の皆様が出席され、交通安全活動の現状と課題について、意見交換を行いました。

白山市交通安全協会におかれては、市内における交通秩序を確立し、交通安全と円滑を図り、交通事故防止に寄与することを目的に、交通ルールやマナーの向上に関する啓発活動や指導等に鋭意取り組まれています。それでは、今回の意見交換会で出された主な意見を述べさせていただきます。

1点目は、高齢者の交通事故防止についてであります。本市におけることしの死亡事故は、この意見交換会の時点では2件発生しており、いずれも80歳代の方でした。協会では、「白山市交通安全のつどい」を毎年開催して高齢者の交通事故防止について啓発されていますが、近年は参加者が減少傾向にあるため苦慮されています。

委員からは、多くの市民が集まるイベントとタイアップして、効果的な啓発を行うよう提案がありました。また、協会役員からは、高齢者運転免許証自主返納支援事業について、コミュニティバスの本数が少ないなどの理由から、依然として免許証返納を躊躇する高齢者が多いので、市と議会で事業の拡充や地域公共交通の充実に向けて一層検討してほしい旨の意見がありました。

2点目、子供たちへの交通安全対策であります。交通安全協会では、児童・生徒に対し通学路での街頭指導や新中学1年生に交通安全用品の贈呈などを行っておりますが、今後拡充を考えているのが「交通安全こどもの集い」であります。この集いは、鶴来・白山ろく地域の小学6年生の授業の一環として開催しており、中でも各校代表の交通安全に対する意見発表については、大人でも心を打たれるような内容であることから、市内全域に広げる計画をされています。

委員からは、小学生のみならず、中・高生の自転車マナーの向上に向けて、学校や警察と連携し、VTR等を活用した啓発活動の提案がありました。

3点目は、白山市交通安全協会の各支部においても、地域と連携して活発に取り組まれている交通安全活動についてであります。特徴的な例として、地域内のカーブミラーを商工会などと合同で一斉清掃をするとともに、破損箇所等についてもチェックしております。また、小学校に出向いて自転車教室を開催し、実際に視界が悪い交差点での運転を体感してもらうため、グラウンドに壁を立て自転車に乗って、危険箇所での対応等を講習した結果、交通安全に対する認識が深まり、ヘルメットの着用率が向上したということでした。

中でも委員が特に関心をもった活動は、交通事故の発生箇所を記載した交通事故マップを作成、配布していることで、地域住民が危険箇所を認識し、事故を未然に防ぐ内容になっていることから、他の支部にも広げるとともに、地図の作成に子供や高齢者にも加わってもらい、それぞれの目線での危険箇所を落とし込むなど、より充実したものにしてほしいとの意見がありました。

4点目は、白山市交通安全協会の各支部が、白山警察署が組織する松任地区交通安全協会連合会と鶴来地区交通安全協会にも所属しているという組織体制についてであります。松任地区交通安全協会連合会には松任地域と美川地域の各支部、さらには野々市市内の各支部も所属し、鶴来地区交通安全協会には鶴来地域と白山ろく地域の各支部が所属しており、統合前の警察署管轄で組織されています。各支部は市と警察署の2つの組織に所属しており、役員の兼務や高齢化、類似する活動など、さまざまな課題があるということでした。

委員からは、関係団体が交通事故防止という共通理念のもと一体となって、組織の見直しを含めた合理的な体制を検討すべきとの意見がありました。

最後に、白山市交通安全協会は啓発活動や街頭指導のみならず、イベントでの交通警備など多様な活動で地域の安全・安心の土台となっていております。しかしながら、市からの予算は各支部へは配分されておらず、町内会や

企業等に理解を求めながら会費等を集め、ユニフォームや備品等の購入に充てております。執行部におかれては、白山市交通安全協会の献身的な活動について、市民に周知するとともに一層の支援を行っていただきたいと思います。